

新型コロナウイルス対応緊急支援助成 事業計画

事業名(主)	経済的困窮層の食と生活支援のアクセス確保
事業名(副) <small>※任意</small>	地方都市における困窮者支援の質・量の拡充

入力数 主 20 字 副 20 字

資金分配団体名	特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム
---------	------------------------

実行団体名	
-------	--

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> 1)-①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子供の支援
	<input type="checkbox"/> 1)-②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> 1)-③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> 2)-④働くことが困難な人への支援
	<input type="checkbox"/> 2)-⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> 3)-⑥地域の働く場づくりの支援
	<input type="checkbox"/> 3)-⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input checked="" type="checkbox"/> コロナ禍により一時的に生活困窮状態に陥った方々への支援
------------------------	---

入力数 27 字

実施時期	2021年1月 ～ 2022年2月末	事業対象地域	全国 <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 特定地域 (東北、九州・沖縄)	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	感染症拡大やその予防による経済活動の停滞に伴う個人・世帯の所得減少などにより生活が困窮する方々。経済的に余裕が無く食料が不足する家庭や個人、急速な生活不安や失業に伴う移動などの最中、相談をする先を持たない、知らない方々。	事業対象者人数	受益者：34万人 (申請段階推計)(対象地域の、直近の失業者数の累計)
------	--------------------	--------	--	---------------------------------------	--	---------	--

I. 団体の社会的役割

(1) 団体の目的	当法人は、NGO、政府機関、企業、メディア及び研究機関等が有している人材、資金及び知識や経験の相互利用により、日本の民間団体による援助活動の質的向上を図り、国内外で起こる自然災害の被災地域、紛争地域及び途上国における援助活動を積極的にを行い、その活動を通じて国際社会の一員として平和な社会づくりに貢献することを目的とする。また、その活動を通じて日本の市民社会のさらなる発展に寄与することを望む。
(2) 団体の概要・事業内容等	当法人は、団体の目的を達成するために援助活動に従事する民間団体等への、官民間わい資金、物的資源を助成するなどし、国内外で起きる被災地、紛争地の緊急人道支援を行っている。併せて、援助活動の更なる適正性や効率性を高めるため関係する多様な機関との連絡調整や民間団体の組織、人的基盤強化を実施している。 また援助活動の調査研究、政策提言等を広く発信し、企業や団体等と連携した支援者の開拓も行っている。

入力数 (1) 197 字 (2) 199 字

II. 事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題 JPFでは本年4月から本感染症による社会課題を災害と捉え、助成活動による支援を行っています。当初は物資や環境整備に関わる支援が主でしたが、現在は、感染症罹患予防の副作用として低迷する経済情勢により、生活が経済的に困難になる方々が増加し、食料や住宅への接続など人道的支援を行う必要が高まっています。 ■経済的脆弱層の急増 新型コロナウイルス対応の公的支援制度により一時的に支えられている『経済的に脆弱な状況』の方々が少なくとも100万人、企業数でも100万社以上となっています。その支援制度終了や制度移行(切れ目)等により、困窮状態に陥る人々が急増する可能性があります。困窮者に対する食料提供や生活相談を行う団体への聞き取りの範囲では、既に相談者数や食料提供者数が今年の3月以降毎月少なくとも20%づつ増加している状況が続いており、現段階でも物資、人材、資金が不足しています。また感染者数が多い首都圏、雇用がない地方から、『地方の大都市』に失業者が移動するなど、聞き取りの範囲では、直近の支援対象者に占める県外者の割合が6割を超える場合など、これまでにない困窮者支援を求められています。 ■不足する支援者側の対応能力 地域主体で活動を行ってきた団体では、数的にこれまでにない支援対応が必要になり、支援力不足になります。また、この新たな困窮者の特徴として、『支援されることを知らない』や、『支援されることに二の足を踏む』点があり、支援者側も困窮状況が悪化する前に支援するためのアプローチ体制を整える必要があると考えられます。 ■地方都市での失業者増 全国で新しい困窮層の増加が見込まれますが、特に民間支援団体の支援力が地方都市で不足すると考えられ、公的な統計を参照すると、東北圏、九州圏、沖縄が完全失業率や被災のダメージ、相対的な民間支援団体の体制整備状況などから、支援が必要な地域と考えます。

入力数 795 字

III. 事業

(1) 事業の概要	コロナ禍で低迷する経済情勢を背景に経済的困窮に陥った人々の数は、支援制度終了や制度移行等により、今後さらに増加すると考えられる。本事業では、豪雨等による被災及び完全失業率の高い東北、九州、沖縄を対象として、困窮者が『食』と『職や住に対する生活支援相談』につながれるよう、フードバンク団体の食料調達手段の多様化・安定化に向けた支援及び、困窮者支援を行う民間団体の職員研修や人員の確保等の組織基盤の整備に助成を行う。基盤整備の結果としては、食料などの支援物資の一時的な調達を行いながら、市民や企業などと連携した物資の安定的な確保体制構築や、新しい困窮層への支援手法やアプローチ方法の開発を行う。
-----------	---

(2)活動(資金支援) (実行団体の活動想定)	時期
食の支援について：食品収集能力や組織基盤の高いフードバンク団体が、特定地域の体制が脆弱なフードバンク団体を後方支援し、不足する食料の調達や未整備な組織運営基盤の支援を行い、食料調達手段の多様化、安定化に向けた支援を行う。不足する困窮者への相談対応能力向上を	21年3月:不足する支援物資の調達 21年4月：市民や地域内企業などからの物資
研修などを通じ身に付ける。	提供体制の準備（物資提供と同時）
生活相談について：東北や九州における宿所提供など困窮者支援を行う団体が、急増する新たな困窮者への生活相談を行うための職員研修や	21年3月:職員向け研修
人員の確保を行い、支援される事に慣れていない困窮者層へのアウトリーチや公的制度やそれ以外の生活支援の策を提供できるようになることを目指す。	21年4月:受付型相談に加え、アウトリーチ
場合によっては、人員不足に団体は支援対象者を研修するなどし、自団体に雇用することも想定に入れる。	しながら支援漏れの困窮者支援を行う。

(3)活動 (資金分配団体による伴走支援)	時期
JPFでは、東日本大震災をはじめとした国内災害における脆弱層支援の一環としての食料支援体制（フードバンクや子ども食堂支援）や困窮者への支援体制の構築（広域避難者支援）などの経験から、食料、住宅提供をはじめ、海外での食料支援の経験などを活かし、知見の共有や組織基盤強化に関して支援を行う。知見としては、これまでの国内災害における事例や課題、他地域における関連団体の紹介などを行い、過去の教訓に基づいた計画立案や実行を支援し、より効果的・効率的な活動を後押しする。 組織基盤強化に関しては、その団体の状況にもよるが、支援期間終了後を見据えた資金調達に関わる企業連携や行政との連結に関する支援を行う。	21年3月：伴走支援（企業連携など）

(4)今回の事業実行を通じた目標	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
1.各支援体制の期間終了後の継続性の確保 2.各支援サービスの安全安心な体制整備 3.支援を求める困窮者への対応能力の向上	1.支援終了の次年度の予算確保状況 2.感染症対策マニュアルの整備 人材の育成状況 3.対応数	1.実行団体の2021年度事業計画またはその翌年度事業計画 2.マニュアルやガイドライン確認 3.対応記録等	1.事業が適切な規模で実施することが予定されている。(含む財源) 2.専門家の監修またはそれと同等のもの の策定と実施状況確認 3.各実行団体設定の目標に従う	2021年12月 2021年3月 2022年1月 2022年1月

(5)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
新しい困窮者が断続的発生する状況が事業実施後も想定されるため、重点地域においては、感染症拡大防止に留意しながら物資調達や相談対応における、他団体、他機関、企業等との連携状態を維持・発展を目標とします。また支援から漏れている人へのアウトリーチや適切な相談対応を通じ、支援対象者を見逃さない事業を維持する事を目標とする状態とします。事業の長期的な継続の為、自主財源や、事業協力者の開発を行います。

IV.実行団体の募集

(1)採択予定実行団体数	4団体程度	(2) 1実行団体当たり助成金額	2,500万円程度
(3)申請数確保に向けた工夫	事前の全国を対象にした人道支援活動を行う団体や個人への聞き取りから、適切な申請団体を募集できるように努めます。 また平素からの多様な団体との情報交換や関係性などを通じ、団体の推薦や相談を通じ、支援を必要とする団体の紹介や推薦を得ます。 コロナ禍での活動の為、当該地域での活動の実現性や実績、合わせて困窮者支援の制度への精通した団体に焦点を当て、効果的な事業を行える団体の確保に努めます。		
(4)予定する審査方法 (審査スケジュール、審査構成、留意点等)	公募期間：1か月（21年1月開始を予定。含む申請相談期間） 審査期間：2週間（21年2月中旬～末にかけて） 事業開始：21年3月1日開始を目標		

V.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	当団体の事務局長を責任者として、地域事業部長を事業主担当とし、事業補佐1人、事務担当2人の5人体制で実施予定。別途組織内広報部門や渉外部門と連携も行う。
(2)他団体との連携体制	事業推進自体は自団体のみで行うが、情報交換や実行団体実施事業などにおける相乗効果などが期待できる場合は随時関係する団体や機関、企業と連携を行う。
(3)想定されるリスクと管理体制	感染症の拡大による都市閉鎖や対人対面支援を行う実行団体における感染症罹患者の発生が想定される。いずれの場合も、申請段階において感染症対策のガイドラインを作成いただき、感染症に罹患しない・させない体制を作ってくださいと事とする。その他、実行団体の会計上や活動上のトラブルに関しては、これまでの助成活動から、モニタリング等による発生抑制やトラブル対応の手續きに基づき対応する。

新型コロナウイルス対応緊急支援助成

資金計画書

① 調達の内訳

申請事業名： 経済的困窮層の食と生活支援のアクセス確保

申請団体名： 地方都市における困窮者支援の質・量の拡充

事業期間： 2021年1月～2022年2月

※黄色のセルは自動計算されるので記入不要です。

1. 事業費の調達（自己資金・民間資金が確保できなくても、申請できます）

	2020年度	2021年度	2020年度	2021年度	合計（円）
A. 助成金	45,033,984	71,596,942			116,630,926
B. 自己資金・民間資金	0	0			0
合計（A+B）	45,033,984	71,596,942			116,630,926

2. 別枠C. プログラム・オフィサー関連経費

	2020年度	2021年度	2020年度	2021年度	合計（円）
プログラム・オフィサー関連経費	600,000	1,048,000			1,648,000
		1,648,000			

3. 別枠D. 評価関連経費

	2020年度	2021年度	2020年度	2021年度	合計（円）

4. 助成金の合計

	2020年度	2021年度	2020年度	2021年度	合計（円）
合計（A+C+D）	45,633,984	72,644,942			118,278,926
		118,278,926			

5. 総事業費

	2020年度	2021年度	2020年度	2021年度	合計（円）
合計（A+B+C+D）	45,633,984	72,644,942			118,278,926
		118,278,926			

② 自己資金・民間資金（①調達の内訳のB）の明細

自己資本・民間資金の確保ができなくても申請できます。

自己資金・民間資金を確保できる場合に限り入力をお願いします。

（実施予定の事業の全体像を把握させていただくためのものです）

事業費の調達に占める自己資金又は民間資金について、その内訳を記載ください。

資金の種類	金額（円）	調達確度 （A:確定済、B:内諾済、C:調整中、D:計画段階）	備考 （調達時期等）
2020年度小計	0		
2021年度小計	0		
合計	0		

③事業費（①調達の内訳のA+B）の明細

※黄色のセルは自動計算されるので記入不要です。

※2020年度、2021年度を記入してください。

(1) 事業費の支出明細

		2020年度	2021年度	2020年度	2021年度	合計（円）
A. 助成金	実行団体への助成に 充当される費用	42,000,000	58,000,000			100,000,000
	管理的経費	3,033,984	13,596,942			16,630,926
	管理的経費の割合	6.7%	19.0%			14.3%
B. 自己資金・ 民間資金	実行団体への助成に 充当される費用	0	0			0
	管理的経費	0	0			0
	管理的経費の割合	#DIV/0!	#DIV/0!			#DIV/0!

(2) 実行団体への助成に充当される費用の年度別概算

	2020年度	2021年度	2020年度	2021年度	合計（円）
実行団体への助成に充当される費用	42,000,000	58,000,000			100,000,000
事業費に占める割合	93.3%	81.0%			85.7%